

わの川の楽しい思い出

青森県県土整備部河川砂防課長
加藤 清和

ふるさとの川

子どもの頃の川との関わりは、皆さんと同様に魚取りです。釣りではなく、たも網や四つ手網、笠（ふるさとは「うげ」と呼んでいた）を使っただけの魚取りです。

たも網は、小川の岸の草付きを狙って、ただ掬うだけ。四つ手網は洪水後の濁った小川に入れて、流されてくる魚をタイミング良くあげる。笠は、夕方、浅い川に両脇と上を石で固定し、翌朝閉じ込められた魚とともに上げに行きました。

コイやフナ、ナマズ、ドジョウが捕れました。雪国では無く、川の水も多かったせいか、魚体が幾分大きかったと思います。田んぼの水路に何気なく入れたたも網で40cm程のコイを掬い、びっくりしたことを今になって思い出しました。

「火ぶり」という夜の魚取りもやりました。碎石のようなカーバイトを入れ水を滴下し、アセチレンガスを灯すカーバイト・カンテラで夜、川の浅瀬を照らしながら、眠っているのか流れに任せて動かない魚をたも網で掬うものです。浅瀬が多く川幅もある川が格好の場所でした。中学か高校か忘れましたが、授業で「夜、魚はどうしているのでしょうか？」という話で、すかさず手を挙げ「眠っています」と答え、どっと皆に笑われました。しかし、私は今でも「夜、魚は流れに身を任せ眠っている」と信じています。

青森の川

青森県に赴任して、青森市の赤川の脇の公舎に住みました。赤川はまだ未改修の時代で、幅2m程の原始河川といった川でした。夜、懐中電灯とたも網を持って出かけ、1、2時間で数十匹のチカを掬えました。すぐに天ぷらにし、おいしかったです。

現在、新城からバス通勤しています。朝、西バイパスで来る時に新城川の新城大橋と280号バイパスの平岡橋の間に、また跨線橋から沖館川の西滝川が合流する直



下流にたくさんの白鳥を見ます。新城川でも上流からJR橋、平福橋、農道に架かる岡田橋と至る所で白鳥や鴨を見ることができます。県内の白鳥の飛来地は数百あるのではないかと思います。中部地方では有数の観光地となっているミズバショウも青森では何処へ行っても見られます。

青森の川の自然の豊かさは、凄いといつも感じています。

あおもりの川を愛する会

会の活動で印象の強いものは、やはり野外活動です。堤川を愛する会のブナ植樹に参加させていただきました。横内川流域で日本一おいしい水を守るための植林です。横内川流域は興味深いところです。上流部のブナ林にはクジャクタテハやキベリタテハが舞、横内の取水堰のところでコムラサキの大群を見たことがあります。鳶川の河川清掃でも楽しい散策ができました。

目次:

「わの川の楽しい思い出」	P1
平成22年度活動報告 サークル「母なる川」	P3
平成22年度活動報告 堤川を愛する会	P4
平成22年度活動報告 親しめる川づくりサークル	〃
平成22年度活動報告 ジョイリバーおいらせ	〃
河川技術講演会	P5
鳶川清掃活動	〃
イワナ産卵床づくり	P6
総会・講演会	〃
平成23年度あおもりの川 を愛する会総会のご案内	〃
事務局より	〃

ハイライト:

- ・魚は夜、流れに身を任せ眠っている？(P1)
- ・20世紀最大の環境破壊(P2)
- ・世界ガーデン・シティ賞(P3)

川の楽しさ

折々に川を楽しんできました。1979年の正月、厳冬期のハバロフスクでは、車が結氷したアムール川を渡っていました。その足で、ウズベキスタンの城郭都市ブハラを訪ねました。近くにアムダリア川が有り、キジルクム砂漠とカラクム砂漠を分ける様に流れアラル海に注ぐ河川です。古代から何度か流路を変えており城郭都市が変遷しており、ブハラもその一つです。

当時、アラル海までの主流路長2,400kmの河川でしたが、1960年代以降の自然改造（運河建設や灌漑）により、今は途中の砂漠で消えてしまって1,450kmだそうです。人的要因による湖の縮小とそれに伴うアラル海周辺環境の急変は、「20世紀最大の環境破壊」と言われるそうです。

標高7,284mのパスピークの初登頂を目指す登山隊に参加し、1974年6月、インダス川を北上しました。中国のチベット高原から始まり、ギルギット・バルティスタン州を通り、パキスタンを南に抜け、パキスタンの港都市カラチの近くでアラビア海に注いでいる河川で、主流路3,180kmで、流域面積は1,165,000km²です。



写真-1 パスー氷河 パキスタン

氷河は、山頂（標高7,284m）の左から流れ、写真中央のアイスフォールを経て左へ流下している。

カラチからパキスタンの首都ラワルピンディ間は飛行機で移動。地上は砂漠が続き、河川は何にも規制されなく自由に流れ、周辺は緑は無く、広い砂場で水を流したように流れの痕跡だけでした。ラワルピンディからギルギットはバスとトラックで、そこでジープに乗り換え、支川のギルギット川を北上した。この道はフンザロードと呼ばれ、中国のカシュガルからクンジュラブ峠を越えてインドに至る、玄奘三蔵が仏典を求めて歩いたシルクロードです。周辺は標高6,000mの山岳地帯で、道路は左右岸の数kmの斜面にへばり付く糸の様でした。川の濁流に遮られ、左右岸の行き来は出来ません。斜面崩落で川が堰き止められて、10数kmの天然ダムが形成されており、軍のフェリーポートやドラム缶を並べた仮橋を渡りさらに進みました。小規模の落石は自分たちで片付け、狭い道路の拡幅は中国の紅衛兵が人力で穴を掘りダイナマイトで対応していました。



写真-2 メラピ火山とゲンドール川 中部ジャワ

2006年5月の噴火により流出した砂や石を建設資材として採取している。

河川の底に見えるのはトラック。2008年9月撮影

パスー村からキャラバンを組んでバトゥール氷河から稜線に上がり、反対側のパスー氷河から登山活動に入りました。

氷河も、興味深い地形を見せてくれました。川と同様にゆったりと流れている部分、そして急な所はアイスフォールです。岩や石を表面に乗せて流し、先端に堆石を積み上げます。氷河の上で寝ていると、ゴトゴト動いている音がして気味が悪いですが流れている証拠です。氷河から流れ出る水は、石と氷が擦れ合い懸濁液となっています。グラスに入れ、時間がたっても透明になりません。これを現地の人々はフンザパニ（パニとはウルドゥ語の水）と呼んで健康にいいと飲んでいますが、氷河の上を流れる川もあります、こちらの水は透明で私たちには大変飲みやすい水です。アフタヌーンフラッドというものがあります。氷河が太陽で暖められ、決まって午後には発生する洪水です。

インドネシアにもたくさんの楽しい河川があります。中部ジャワ、メラピ火山のカリ・ゲンドール川では、普段ほとんど水がありませんが、季節により泥流が流れ、メラピ火山が噴火すると熱い泥流（ラハール パナス）が流れ、水蒸気爆発を伴う事もあります。2006年には火砕流により、2名が亡くなりました。火砕流シェルターに逃げ込んで、内部の高温が原因で亡くなりました。2010年10月から11月にかけての噴火では322名がメラピ火山で亡くなっています。原因は火砕流です。このカリ・ゲンドール川は、1988年のマスタープラン作成や2004年の砂防ダム設計（低コスト防災対策のガイドライン作成業務）に関ったり、2006年の火砕流現場を2008年に踏査するなど、思い出多き河川です。



写真-3 マンベラモ川支川タリタトゥ川 ニューギニア島の中央部に位置する盆地を流れるタリタトゥ川の蛇行、州都ジャヤプラから中央高地への飛行機から 1989年5月撮影

●サークル「母なる川」 平成22年度活動報告
サークルリーダー 和島 隆志

<平成23年1月17日 於：ニュージーランド>

「河川の視察を通して河川文化を考える」が当サークルの活動主旨で、本年度の活動として1月にニュージーランドのエイボン川を視察して来ました。

エイボン川はニュージーランド南島、クライストチャーチ市街を流れる川で、長さ約27km、南島のアルプスの雪解け水の湧水が源泉で市街を蛇行し、南太平洋に注いでいる。

川が流れるクライストチャーチは19世紀中頃イギリスによって開拓され、街並みは川を中心に造られた緑豊かな街で、川沿いには植物園、博物館といった建物や公園があり、歴史的建造物と自然が見事に調和した街並みが形成されています。庭園が美しい都市に贈られる「世界ガーデン・シティ賞」も受賞し、現在では街の愛称がガーデン・シティともなっている。

また、川では英国風の制服姿の船頭が船を漕ぐパンティングと呼ばれる舟遊びが名物となっていて、美しい街並みや景色が川からゆっくりと楽しむことができます。

何万キロも離れた地からやって来て、街を築き、そして古き良き時代の故郷イギリスを偲ぶ開拓者の想いが伝わってきました。



●堤川を愛する会 平成22年度活動報告

サークルリーダー 佐藤 信一

＜平成22年5月29日（土） 於：天田内配水所近郊＞

今年度の活動は、昨年まで実施されていた「横内浄水場周辺」の植樹が完了した事により、新たな植樹場所として「天田内配水所近郊」にて実施されました。当日は「みちのく会」と合同で参加する形となりましたが、青森市企業局上下水道部様が主体となって実施された事により他団体（ボランティア）が相当数参加され、曇天にも拘らず盛況裡に終了いたしました。



●親しめる川づくりサークル 平成22年度活動報告

サークルリーダー 南直之進

＜平成22年7月30日（水） 於：土淵川源流＞

平成22年7月30日に22年度事業計画のひとつとして、「土淵川源流の地」探訪会を行いました。建立場所は約一年間かけて周辺を調査し、弘前市久渡寺住職のご協力を得て久渡寺山に標柱を建立致しました。

当日の朝は、昨年と同様に天候が悪く強い雨が降っている状態でした。参加者から問い合わせが数件あり現地で決行する判断という事で集合場所の久渡寺駐車場前に集合して頂きました。集合時間には、まだ、小雨の状態でしたが建立の時間には雨も上がり予定通り標柱を建立できました。今回で5ヶ所目になりますが、今までの中で見た感じが一番いい建立場所のような気がします。参加された方お疲れ様でした。（参加者22名）

建立場所穴掘り



記念撮影



●ジョイリバーおいらせ 平成22年度活動報告

サークルリーダー 中野渡 悟

例年おいらせ知の会とともに活動を展開していますが今年も共同で活動を展開してまいりました。主な活動は1、植樹会2、カヌー体験会3、蔦川清掃活動です。地元の子ども会にも参加をいただき川への理解と自然の大切さを体験し学んでくれています。



植樹会

1. 6月26日総勢31名の参加の元、植樹を実施いたしました。

カヌー体験

2. 7月31日カヌーの体験会を27名の参加の下実施しましたが、当日あいにくの雨と低温によりカヌーには適さないと判断して、急遽ウッドクラフト作成体験に切り替えました。



●平成22年度 河川技術講演会

あおもりの川を愛する会 事務局

<平成22年8月4日（水）於：五所川原市 ふるさと交流民センター>

河川技術講演会（青森河川文化講演会）はNPO法人岩木川と地域づくりを考える会との共催のもと、平成22年8月4日に五所川原市ふるさと交流圏民センターで開催いたしました。

講演会は、佐々木幹夫会長（川を愛する会）が「岩木川河口十三湖の水理機構について」・国土交通省東北地方整備局河川部長 田上澄雄氏が「気候変動と東北地方における今後の河川事業について」のテーマでそれぞれ講演を行いました。

最後に三村申吾知事よりご挨拶をして頂きました。



田上澄雄部長



三村申吾知事



●平成22年度 蔦川（つたがわ）清掃活動

あおもりの川を愛する会 事務局

<平成22年9月4日（土） 於：奥入瀬溪流・蔦川周辺 >

第8回目となります蔦川（旧十和田湖町）の清掃活動が平成22年9月4日に行いました。作業前に分別袋を渡し燃えるごみ・燃えないごみと分けて、会員ほか約95名参加されごみ拾いを行いました。

上流から流れきたと見られる針金・薄い鉄板などあり、川岸には相変わらずジュースの空き缶・タバコの吸殻・ビニール袋等が落ちていました。それでも毎年行っている継続の成果でゴミは年々少なくなってきました。

当会としまして年1回の清掃活動ですが、今後も継続し青森県に来て頂いた観光客に綺麗な蔦川を見て頂きたいと考えております。

ゴミ拾いの様子



参加者写真



●イワナ産卵床づくり

あおもりの川を愛する会 事務局

<平成22年10月7日(木) 於: 蔦川小溪流>

蔦川の小溪流に今年で4年目になります「イワナの人工産卵床」を2ヶ所設置しました。産卵床づくりも4回目になると参加された方の段取りの良さで、作業終了時間が短縮され関心いたしました。産卵床を作って40日後、現地を確認したところ念願の卵が確認されました。



●平成22年度 総会・講演会

あおもりの川を愛する会 事務局



住吉豊明 常務理事

<平成22年5月29日(土) 於: アラスカ会館>

日本河川協会常務理事住吉豊明氏よりご挨拶をいただき、総会終了後、青森県産業技術センター内水面研究所長崎勝康部長が講師となりテーマ「川に棲む魚たち」で講演会を開催しました。



長崎勝康 部長

●平成23年度 あおもりの川を愛する会総会のご案内

あおもりの川を愛する会 事務局



平成23年度の総会を5月21日(土)に予定しております。総会後には、演奏会の開催も予定しております。詳細につきましては、後日改めてご案内いたします。ご繁忙中恐縮に存じますが、万障お繰り合わせの上、ご出席くださいますようご案内申し上げます。

●あおもりの川を愛する会 事務局より

あおもりの川を愛する会

「あおもりの川を愛する会」は今年で13年目を迎えました。会員数は現在206名と年々減少傾向にあります。しかし、今年度も、さまざまな活動を行なうことができました。これからも会の活性化が図れるよう、頑張っていきたいと思っております。ご協力よろしくお願いたします。

【事務局】 〒030-0111
青森県青森市荒川字柴田102番地1

TEL:017-729-0922

FAX:017-739-3561

E-mail:kon-h@nishidagumi.co.jp